

～今、市民の森では！～



作成:NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会

月例観察会の皆さま

あっと言う間に一年の観察が終了しました。1回雨天中止がありました。問題もなく、皆さん怪我もなく、無事終了出来たことは、スタッフとしてホッとしています。今年は、お子さんの参加もあり、子供向けの特別プログラムも実施でき、年齢層も幅広くなってきました。

今年も、市民の森を散策する人のためにと資料の掲示、樹木の名札掛けに取り組みました。掲示とともに設置した掲示のコピーをお持ちになって散策する方も増えてきました。樹木の名札は29枚掛けました。それ以上に、みんなで市民の森を楽しんだのが最大の成果だと思います。

来年も続きます。また、お会いできるのを楽しみにしています。

色美しく (C.S)

- 枯れ枝の中でクサギのガクやムラサキシキブの実の色が鮮やかでした。



クサギ



ムラサキシキブ

楽しみいろいろ (K)

- ホザキヤドリギの黄色の実 落葉するヤドリギを始めてみた。この黄色い実は赤くなるのだろうか。



- エビガライチゴの毛深い茎と大きな葉にビックリ。もしかしたら、実も大きくて美味しいのかな？
- アブラチャンの実。はじめおいしくてあと苦味がいつまでも残っておすすめできない味です。

一日参加

- 市民の森 まさしく市民の貴重な財産ですね。里山を守るの人間という事が良くわかります。(服部千恵子)
- 記憶容量をはるかに超えてさまざまなことを教えていただきました。初の参加でしたが、本当の森林浴が体験できました。ありがとうございました。(服部♫)



- 今年は4名の一日参加がありました。来年は、多くの方に市民の森を知って頂くために、一日参加のPRに努めたいと思っています。そして、メンバーがだれでも案内ができるようになったらいいな。(悦)

油断大敵！！ (SU)

山はすっかり冬を迎える準備になっているのに、なんと、ブヨがまだいました。気付いたら刺されていました。虫よけネットも、かゆみ止めも、何も持ってこなかった……。山に入る時は、常に油断大敵の心づもりで。

アブラムシ (C.S)

アブラムシは特定の植物しか食べないという話、人間のように雑食であることは生き残る上で一つの戦略なのでしょうか。好き嫌いせずに食べることは大事な事なんです。

来年の準備 (☆925)

アブラチャンやその他にも、もう、来春葉や花になる芽が出ていました。私たちが気付かぬ所でも、自然のサイクルは回っているのですね……。改めて、自然の凄さを感じました。



晩秋の楽しみ

- 冬間近かにして、秋の深まった山の姿や木々、草花の姿を見て秋のあじわいを十分に体験しました。ありがとうございました。(だれかな？)



- 秋も終り、それなりの楽しみがあることが判った。何より見通しが良くなった。(南波)
- 今年の吉田山の紅葉は長い期間きれいだった。毎年、毎年景色も植物も生き物もいろいろな姿を見せてくれて、また来年も楽しみたい。(吉江)
- 植物たちが越冬の準備を始めていました。種のつけ方、その種の運び方も様々。実の形、色も様々で面白い。また来年、目が出るのが楽しみです。(門久)

オオムラサキ君 元気！

- 市民の森に、エゾエノキがたくさんあることがわかりました。オオムラサキが増えることが期待できそう。(SU)
- エゾエノキノ元の落葉をめぐって見たら「オオムラサキ」の幼虫がちゃんといました。(☆925)
- オオムラサキの幼虫を見つけられてラッキーでした。無事、冬を越して春にチョウになってほしいです。本日はいろいろありがとうございました。(一日参加 M.K)



- オオムラサキの食草であるエゾエノキの葉の緑を残したまま枯れていく姿は特徴があります。それは、冬枯れの始まったスケスケの林の中で目立ちます。「あそこにも、ここにもエゾエノキ」この森には、沢山のエゾエノキがあることが判ります。だからこそ、7月には、あちこちでオオムラサキが飛ぶのを見られるわけです。来年も、楽しみに待ちましょう。(悦)



コブシ (mitty)



コブシの花が咲いた時には気づかなかったのに、秋になったら実がいっぱいできていた。この実の形が拳に似ているからコブシ？実のカラが弾けて赤い実が顔をだしている。この赤い実をひっぱると白い糸のようなものがずーっと伸びる。調べたらコブシと同じもくれん科のモクレンの実も糸をひくとある。糸は何本もの白い糸が束になっているらしい。この糸の正体は、枝から実へ栄養を運んでいる管が伸びたもので、果肉の中をぐるっと回って長くなっているらしい。何故、伸びるのか？空中でぶらぶら揺れることによって赤い実を目立たせて鳥に食べてもらい易くするため、という説があるが、本当かな？

池にて (KK)

池には、マガモとカルガモが数話いました。



自分流の観察 (石田)

今年の最後の観察会は好天で、紅葉、黄葉、落葉が進んでいて森が明るくなっていた。快適な散歩的に歩きつづけ、終盤、晩秋の陽射しの斜光が入る。黄葉した木もれ陽は、フォンテーヌブローもかくやと思われた。樹高と気功と、気温の差について考えながら歩いていた。高木、中高木は、黄葉、落葉が横並びで進んでいるのに比べ、樹高50cm未満のやっとうと葉が3~5枚出ました。という幼木(実生)では、枯葉にまぎって、緑の葉が見られる。(カラコギカエデ、コナラ、クヌギでも)これらは、上部の葉にさえぎられていた。日ざしが届くようになって低い幼木は、今の機会に光合成を続けているのだろう。多田多恵子先生の講演にあったスプリングエフェメラルの晩秋バージョンということか。と思った。

下見のおみやげ (矢)

小石の上で日向ぼっこしていたコンペイトウの様な子は「アカイラガ」の終齢幼虫のようです。コナラ、クヌギ、クリ、サクラ類、ウメ、カエデ、柿などを食し、全体にゼリーのような透明感のあるイラガだそうです。成虫は実に地味です。



晩秋の楽しみ (悦)

●エゾエノキの実



●ツルリンドウの実



●スイカズラの実



●ツチグリ

これはキノコ。ブローチではありません。

